

◆◇ 会議録(要旨) ◇◆

会議テーマ	令和2年度 第3回阿南市総合計画審議会		
開催年月日	令和2年11月19日(木)	資料の有無	有
会場	阿南市役所6階 602・603・604会議室		
出席者	<p>【委員】 岩佐委員、小笠原委員、清原委員、紅露委員、丹生川委員、長久委員、野村委員、増田委員、山本委員、青木委員、片山委員、西野委員、藤井委員、和田委員、兼松委員、佐竹委員、永田委員、西岡委員、炭谷委員、原田委員</p> <p>【市】 山本副市長、松内企画部長、山脇危機管理部長、佐野市民部長、富永環境管理部長、西尾保健福祉部長、青木産業部長、都築建設部長、森本特定事業部長、金久会計管理者、田村水道部長、長田教育部長、中野消防長、倉野議会事務局長、</p> <p>【事務局】 岡田企画政策課長、山田企画政策課長補佐</p> <p>【オブザーバー】 株ぎょうせい四国支社(石丸担当課長、成田主任研究員、井澤研究員)</p>		
傍聴者	0人		
内 容			
<p>【次第】</p> <p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">(1)基本構想策定の報告について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2)基本計画(検討資料)について</p> <p style="padding-left: 20px;">(3)キャッチフレーズ(副題)の選考について</p> <p>3 閉会</p>			

9:00 開会

【次第】

1 開 会

2 議 事

(1)基本構想策定の報告について

(事務局)

「序論」「基本構想」に基づき説明を行う。

○審議

(平山会長)

事務局から、審議会での答申を踏まえて策定された「基本構想」についての説明があった。すでに議決を終えているとのことで、構想の内容は確定しているが、ご意見等あったら、いただきたいと思う。

(A 委員)

基本構想について、手続きを終えたとの報告があった。その中で、国は 2050 年のカーボンニュートラルという非常に大きいテーマで方針が決まった。8年間の本市の総合計画をバックキャストिंगで振り返った時に、その文字が入っていないことになるのではないかと。今後の策定の手順で、再度検討いただければと思う。

(事務局)

基本構想については議会で決定事項としているので、「カーボンニュートラル」という事については、基本計画の施策のところ、何らか触れていきたい。

(平山会長)

他に、不明点などいかがか。

(B 委員)

商工会議所より、まとめて提案があればとの事であったが、「第6次阿南市総合計画施策提案分科会」という分科会を結成して、意見書として取りまとめて事務局に提出した。商工業者の代表者の意見として参考にしていきたい。

(事務局)

意見書として届いているので、今後の参考にしたい。

(2)基本計画(検討資料)について

(事務局)

「基本計画検討資料」に基づき説明を行う。

(平山会長)

質問いかがか。

(A 委員)

審議会の進め方を見たが、「委員の皆さまにマイクを回すのでご発言ください」というものであった。この意見の扱いは、どのようになるか。

資料が来たのが、今週の日曜日で会議まで中2日しかなかった。次の連休明けまでもう少し精査したいので、質問書の提出に猶予があればありがたい。

(平山会長)

その件に関しては、審議会の前に事務局とも話をした。事務局から、説明をしてもらいたい。

(事務局)

策定スケジュールを配布しているが、19日の審議会を経てパブリックコメントを12月に実施する予定である。本日も欠席委員がいることから、12月4日まで意見は随時受け付ける。資料配布が遅れたことに対してお詫び申し上げるが、本日の意見はこの場で聞き、自宅に帰りさらに意見がある場合は、メールなどで企画政策課にいただきたいと思う。

(C 委員)

p.27にある「女性リーダー育成」というのは、女性リーダーを育成して女性委員の比率をアップするという意味なのか。あるいは、阿南市にすでにいる女性リーダーに、審議会の委員になってもらうという意味なのか。

(市)

審議会等の女性委員の比率を上げるというのは、「審議会等」はミスプリントで削除をしてもらいたい。「行政委員会」については、女性職員の比率を高めていく、「審議会」については、公募を多くするといったことで考えている。

(D 委員)

p.22に「消費生活相談体制の充実」がある。相談件数の基準値が484で、目標値が450である。今の件数が、基準値よりも減っているのはなぜか。

(市)

消費生活相談件数については、世の中が良くなるような状況を見据えて、減ってくるのがよいのではないかという考えである。実際、消費者センターを宣伝して増やすこともあるが、質問や苦情が少なくなる方が、良いのではないかという事で、数字を少なくした。

(平山会長)

目標値に関して、質問がある。p.32の基本目標2「阿南市というまちが好きだと感じる児童生徒の割合」について、なぜ80%で良しとしているのか。この目標値をどのようにして決めたのか。

(市)

教育部では、過去5年間ごとに阿南市教育振興計画を策定している。策定にあたり、児童・生徒にアンケートをとり、目標を定めている。

(平山会長)

アンケートを取った時に 80%であったのか。

(市)

参考にしているという意味である。策定する場合にこのような目標を設定する。

(D 委員)

今のままでは、わかったのかわからないのかという状態である。これは、変わらないのか。

(平山委員)

これは、検討資料である。意見をいただいてという認識で良いか。各委員にもマイクを回すので、その時意見が欲しい。

(E 委員)

スポーツのところの p.37「生涯スポーツ」の部分で、スポーツをする人を増やす基準値と目標値がある。この中で、「スポーツ少年団の数」とあるが、クラブスポーツをしている子どももいるここで、民間でのスポーツクラブを行っている子も含まれているのか。

(市)

スポーツ少年団の数は精査したい。

(平山会長)

各団体の意見をいただきたい。

(F 委員)

p.51 の雇用環境の部分である。現状と課題で「介護分野の人員不足」ということがあるが、奨学金制度による介護職のというところは、若者の定着率としたほうがいいのではないか。検討いただきたい。

(G 委員)

文化協会が関連するのは、p.39～40 であるが、実際の文化芸術活動は今回のコロナで厳しい状況になった。今回の取り上げられている項目について異論はない。心配しているのは、実行の際の予算の問題である。基本計画と予算はどこで連動するのか。特に、文化財関係は、保全と活用の問題が取り上げられている。若杉山を例にして案を立てている。文化財の保存の費用はが必要だが、予算がない。文化財の保存とは言っても、ただ見ているだけで悲しい。これについて、苦勞している。公共団体、新聞社、日垂化学工業が文化財のサポートをしてくれているが、行政が積極的ではない。芸術について、コロナで困っている時、試練の時は、まちには取り組んでもらいたい。

心配事がある。打樋川の近くに住んでいるが、昔はうなぎがとれた、ハゼが釣れたが、今は污水対策がまずいのではないか。もう一つ心配なのが、空き家が目立って酷い。まちは市民に分かる形でアピールが必要である。

(B 委員)

p.41 から「地域資源を活かした新たな賑わいと活力を創出する」とあるが、商業、観光、交流を危惧している。コロナ禍で市民の行動パターンが変わっている。商業はオンライン販売になってくる。コロナで治療薬

が開発すれば変わると思うが、冠婚葬祭を含めて生活パターンが変わっている。商業、観光は影響が大きく、観光もマイクロツーリズムで、近隣からの来客になる。遠く離れたところから来ていただくのが難しい状況が続くと思う。雇用も影響を受け、運輸関係も崩壊している。反対に、医療は人出不足である。交流人口といっても、オンライン会議等の普及で先が見えない。コロナ禍であり、このように再考をいただきたい。

(E 委員)

p.32の「教育」にある基本目標4の主要な取組で、「小学校・中学校の再編・統合に向けたプロジェクトの推進」とあるが、PTA でも再編は避けられないと考えている。その場合、基準を決めた方が良いと思う。項目はあるが、目標値もないものがある。そのあたりを説明してもらいたい。小学校の統廃合に向けた基準値、目標値を入れてもらいたい。

p.37「スポーツ」で、スポーツ振興をしていこうとする目標値であれば、スポーツ少年団と民間のスポーツクラブの人数も併せてもらいたい。検討をお願いしたい。p.42には、色々なスポーツのことが含まれていると思うが野球に偏りすぎている。「野球による」を消すことも考えられるが、SUPは県外からも人が来ており、「SUPとその他のスポーツ」という項目を加えてほしい。基準値について、今は分からないためゼロでもざっくりした基準値を入れてもらいたい。

次に、p.59の空き家関連では、現状の空き家の数を把握されていると思うので、現状基準値と目標を含めたほうが良いのではないかと。

p.74のシティプロモーションでは、本市のイメージアップで野球のまちは否定しないが、サーフィンなど、ほかのスポーツも入れてもらいたい。行財政のところで、国でも印鑑廃止の議論はあるが、そのような内容を入れてはどうか。

(H 委員)

婦人会は地域のボランティア団体である。敬老会は会が開かれないという事であった。市長にもお願いしたが、十分な気持ちなどがどこまで理解したか分からない。ボランティア団体も人が減っている。若い人は自分の生活でいっぱいということは分かるが、もう少しボランティア意識があれば良い。女性リーダーがどういう人か議論して欲しい。阿南市も女性協議会がある。これもボランティア集団である。これも人数が減っている。自分たちで頑張ろうという人だけが残っている。女性リーダーがどの程度考えるか。地域おこし協力隊も協力したいが、交流できていない。地域おこしの人と話ができればよい。今年、婦人会でSDGsのアンケートを取ったが、若者ほど知らない。このことをどうアピールするか。どのように啓発するか。

(I 委員)

国としても、今はコロナで大変である。市としても、こういう多くのことをやっていかなければならない状況である。こういう中で、「情報」をどのように進めていくか。一般の企業であれば、PDCAで環境の変化や情報の変化に合わせ、議員の人も出てチェックをどのようにしていくのか。

(J 委員)

p.42「農業」の数値目標については、阿南管内にJAが2つあるので数値の確認はできていないが、放置竹林や有害鳥獣については、阿南市にも対策を要望している。特に問題なのが、高齢化とともに生産者が減少している。そのため、就農者の増加を目標とした農業体験などについて、UIJ ターンも含めて、行政にもご協力いただきたい。p.74の「既存球場」の下が消えている。誤字ではないか。

(D 委員)

高齢者はITの時代に非常に対応が遅れている。そういう人が失敗する人が多い。相談件数を減らすのは考えられない。そういうことによって、不便な生活をしている。もうちょっと頑張って充実して欲しい。今の

時代、高齢者はついていけない。

(K 委員)

地域福祉と高齢者について基本方針は問題ないが、ここでは遠慮したい。

(L 委員)

部落差別解消推進法が施行されて3年になる。p.24 にある基本目標は推進法との整合性ということで進めていただきたい。

(M 委員)

基本計画は全体で良い言葉があり、元気が出るように思う。教育関係のところだけでなく、子育てに関することが、横断的に言葉に出ているのでありがたい。例えば、p.47 の職業では、職場体験の事が書かれている。p.32 では、「国際交流」が書かれている。この頃、外国籍の子どもが増えているので、そういう視点があるのはうれしい。p.32 に目標値があるが、私達も何度もアンケートをしている。そこで、70%~80%は概ね成功と考えて良いのではないか。「阿南市が良い町だと思えるのが100%」が教育として成功するのか。

(N 委員)

阿南市は人権尊重のまちとして、事業を展開してきた。今回の基本計画も、人権が多くを占めている。今後も市民一人ひとりが、心豊かに安心して暮らせるまちづくりに向けて取り組んでもらいたい。

(O 委員)

資料の p.4に福祉関係が記載されている。「地域共生社会の実現」というのは重要なテーマであると思う。基本目標3の所で、「我が事・丸ごとの相談支援体制の整備」という言葉がある。私達も地域での相談を受けているが、コロナで経済的・精神的な問題や相談が増えている。そして、相談が複雑化、多様化しており、答えの出る問題が少ない。「我が事・丸ごとの相談」は方向性として重要ではないか。

(P 委員)

公民館の利用率は女性が80%で、お父さんは家でテレビという状態である。「お父さんの楽しいことは」と聞くと、一個もありませんと冷たくあしらわれている。公民館には、お父さんも一緒に来ていただきたいと思う。色々なサークルもある。

公民館として、色々な共同募金を集めている。婦人会の皆様にも助けていただいている。しかし、婦人会は脱退したりしている人も多い。これも、復活してもらいたい。

(Q 委員)

市民や委員の意見をしっかり聞いて、ビジョンを持つてつくり、どこを反映したか、どう実行したかを示してもらいたい。

計画の内容について、p.18 の安心・安全の防災意識の視点ところで、消防防災教育の充実が入っているが、そこに学校防災を付け加えてもらいたい。防災について、生涯にわたって学んでいくためにも、自ら問いかけ、学校教育現場において課題を発見し、まとめ発表し、教師、生徒の評価を経て調べなおすと学校内外の自主防災との連携など能動的学習が必要である。この視点は文科省の防災教育の課題として掲げられているのでそのあたりを検討してもらいたい。SDGs17 のゴールを全部するのは無理なので、分野横断的に政策を実行できるSDGs 推進課を作ってもらいたい。県レベルでは、神奈川県に「政策局 SDGs推進課」、鳥取県では「新時代・SDGs推進課」がある。市では、生駒市、北九州市が挙げられる。SDGs の新部署を提案する。そこがエンジンとなり、17 の目標に向かって推進していただきたい。若者の意見を反映

させる体制、外部評価をしていく、その評価のなかに学識者だけではなく市民を入れてもらいたい。

(R 委員)

コロナウイルスは避けて通れないので、p.2の「健康づくり」の感染症対策の推進の中で、もう少し加えてもらいたい。コロナは1つのチャンスとしてとらえられる。都市と地方の境界が無くなってきているように思う。このチャンスを活かし、「チャレンジ都市阿南」に向けて進んでいってもらいたい。横断的な分野を統括するものも入れてもらいたい。

(S 委員)

p.26 の基本政策2で男女平等について「多様性」という記載があるが、男女以外の性別についても記載いただきたい。現在も私を含め心と体の性が一致せず、性別に違和感を持っている人が多くいる。8年後には、異なる概念として新たな性別が生まれている世の中であるべきだと思う。SDGsにもあるが、「ジェンダー平等」があるが、人権尊重のまち先進的な取り組みを入れてもらいたい。

p.38 の「スポーツ」はベースボール型と海洋スポーツが記載されているが、それ以外のスポーツについても、門戸を広げるべきでないかと考えている。関係人口の増加、スポーツツーリズムの観点からも、若い世代が希望をもてる記載が必要ではないか。

p.46 の工業の中に「新産業の創出」が入っているが、これは工業に入る者なのか。また、別の目標を設定すべきではないか。バックカスティングで将来チャレンジと掲げているので、今後の若者が未来に希望を持てるように。解決できればと思う。

(A 委員)

包括的な事を話すと、2050年のカーボンニュートラルが国の政策として発せられたので、阿南市としても成長するチャンスではないか。そのために、総合計画の適切な実施とインフラ整備が必要ではないか。

p.16 ページの災害時の消防・救急があるが、辰巳工業団地の河川側の防災はできたが、液状化対策が出来ていないのではないか。立地適正化計画はまちには馴染みにくい制度ではないかと思う。例えば、橘峠は、津波想定7メートルのところに居住区域が設定してある。また、阿南市の移動は90%が車であるにも関わらず、公共交通機関を軸としたまちづくりは難しい。

p.18 の基本目標4で排水機能の耐水化が国の国土強靱化で挙がっている。辰巳地区の樋門化も早期に対応すべきである。

p.42 の「農業」の問題は大きいですが、農地の取得は緩和するべきとの方針を出している。農地付き古民家も売れていると聞いている。

基本目標1で企業誘致の事が記載されているが、阿南市を含め、県内にまとまった工業団地はない。工業都市阿南市では、高速道路開業に合わせて、次世代型工業団地の設置が必要でないか。「市内主要企業で働く従業員数」が1万人というのは、少ないのではないか。自然増で達成できる。もう少し野心的な目標が必要ではないか。インキュベーションの目標が8件であるが、工業のまちとしてインキュベーション施設を活用して欲しい。インセンティブも必要ではないか。

p.48 に5年前に制定された「中小企業振興基本条例」の記載がない。この書き込みが必要ではないか。

p.49 の基本目標1の野球観光は成果が上がっていると実感しているが、野球観光の400人は少ない。1000人は欲しい。合宿も高速道路開通を視野に、京阪神圏の大学の誘致に尽力をいただきたい。

観光・交流も東アジアで野球熱が高まる現状から、野球を軸とした観光誘致も必要ではないか。

阿南市は風力の適地である。2050年のカーボンニュートラルで、阿南市はゼロエミッションで成長しているため、基本計画に書き込んでいただきたい。

アフターコロナの行政の在り方として、非接触の窓口が効率化と共に必要ではないか。

(C 委員)

人権・男女共同参画と言う点から、男女に当てはまらない性別の話が合った。私たちは身体的違いから、男らしさ女らしさのイメージから派生し、社会的文化的に作られた性差がある。ジェンダー視点を持つリーダーの育成が必要であると考えます。

リーダーを育成した後は、フェアや公立性な観点からも、意思決定の場に女性やセクシャルマイノリティの方の発言が必要である。価値観の違いを公共政策に生かすためである。メンバーの中に、偏りのない人数も必要である。SNSで人を集めることに慣れているZ世代。幅広い知識や人脈を持つ年配の方まで、色々な人が集まる事で、変化に強くレジリエンスな構成が可能になってくる。誰もが自己決定しながら可能性を持ち、可能性を開花させる地域社会を願っている。

市の公式サイトは、ウェブアクセスアビリティをダブルユー対応にしていきたい。年齢、身体的条件に関わらず、ウェブで提供されている情報にアクセスし、利用することが必要である。ページを更新する担当者が知識を身に着けることで、高齢者や障がい者にも親切な対応になるのではないかな。

様々な部署の職員から編成される「タスクホース設置」の検討をお願いしたい。

(T 委員)

意見というより要望であるが、基本計画は4年後にだれが検証するのか、4年後に新たな目標はどのように設定するのか。介護保険は3年ごとに改定されるが、目標等の軌道修正は可能なのか、検証委員会を設置していきたい。その中に、この委員会の委員が入っていただければと思う。

(平山委員)

他に意見いかがか。

(T 委員)

2024年の目標設定の後はどうするのか聞きたい。

(事務局)

序論の資料をご覧ください。p.4の2の計画期間で前期と後期の名称はつけていないが、最初の4年と次の4年で見直しをしたいと思っている。基本計画に基づく具体的な事業は、実施計画を策定する予定である。これは、毎年行うものだが、3年をめでにローリングしている。そのため、基本計画について、中期的な計画が必要なので、4年後を見据えて、精査したい。

(T 委員)

その検証はだれがするのか。

(事務局)

総合計画の審議会は毎年開催する予定である。基本計画の見直しは4年、実施計画は毎年度行いながら3年である。庁内の策定委員会で検証しつつ、2024年度に大きく見直す予定である。審議会の皆様にも報告しながら、計画の推進を図っていきたい。

(T 委員)

そこで、委員の意見が反映できるのか。

(事務局)

委員の任期は1年だが、公募委員の皆さまには、また公募を行う。審議会の審議は今後も継続する。

(T 委員)

メンバーはかわるのか。

(事務局)

公募委員の皆さまは変わる可能性があり、審議委員の皆さまも各団体からの推薦をいただいているので、顔触れが変わる可能性がある。

(平山会長)

各団体の皆様から、貴重な意見を得た。公募の皆様からは、市民の目線で大切な意見をいただいた。今後の参考でなく、反映できるようにお願いしたい。

(市)

各委員からの貴重な意見ありがとうございます。何人かの委員から With コロナ、ポストコロナの話があった。これは本市に限ったものではない。日本や世界の新しい生活が求められる、イノベーションが起こり、チャンスではないか。ハンコの廃止の話もあった。リモート相談の話もあった。国ではデジタル社会の話もあるが、阿南市社会を作っていく第一歩ではないか。

そうした、時代の趨勢、社会の趨勢先をどうとるか、先が読めない難しい社会である。色々な社会のトレンドを読み、基本計画の見直しが求められている。バックカastingで考えたい。

(3)キャッチフレーズ(副題)の選考について

(事務局)

キャッチフレーズ(副題)の選考についてという資料をご覧ください。阿南市では、総合計画を広く市民にアピールするため、キャッチフレーズの(副題)の募集を行ったところ、22人、48作品の応募があった。採用作品を選考するにあたり、阿南市総合計画審議会の委員の皆さまにも投票をいただきたい。

本日出席の委員の皆さまと、欠席委員4人のうち、2人の委員から先に集計をした。選考基準は基本構想の内容を簡素に説明しているもの、市民に親しまれ、愛着を持たれるもの、また独創性のあるものである。選考方法は、部長14人と審議会委員が計3票の投票をし、最終的に市長が決定するものである。

(平山会長)

投票の多かったものは、1位は①、2位は⑬と⑯、4位は⑦、5位が⑨、6位が⑬、7位が⑳である。今後は、市長が決定する。

○今後のスケジュールについて

(事務局)

策定スケジュール(予定)をご覧ください。11月19日に第3回の策定委員会を開催した。その後は、検討資料をもってパブリックコメントを予定する。この内容は、市議会にて説明する。パブリックコメントは、11月25日からスタートし、12月18日に終了する予定である。パブリックコメントの意見は、12月18日までの予定である。それと同時に、資料配布が遅れたため、また本日の審議で思い立ったこともあると思うた

め、12月4日まで、意見を募集する。この意見を踏まえ、12月下旬に策定委員会を開催したいと思う。年明け、1月29日に第4回審議会を開催したい。その意見を踏まえ、3月下旬に基本計画を策定したい。

11:00 終了